

2024年2月20日作成 Ver.4.0

《情報公開文書》

油症患者における皮膚ガス含有成分の特徴を調査する継続研究

研究の概要

【背景】1968年にカネミ油による食中毒事件が発生しました。原因とされるダイオキシンは体内に長くとどまるため、現在でも多くの油症患者さんの血中に高濃度のダイオキシンが検出されます。ダイオキシンの排泄には、皮膚では脂腺から毛包を介して排出される経路が知られていますが、詳細な発症機序や治療法は確立されていません。皮膚の表面には常に皮膚からの分泌物が発散されており、それを皮膚ガスと呼びます。前回私たちは「油症患者における皮膚ガス含有成分の特徴を調査するパイロット研究」（以下、先行研究）にて、油症患者さんより皮膚ガスを採取し血中ダイオキシン類濃度と関係を調べ、関連が考えられるいくつかのダイオキシン類を選出しました。

【目的】先行研究では、油症患者さん4名と健常人10名を研究対象者として解析を行い、ダイオキシン類との関連が考えられるいくつかの皮膚ガス成分を選出しました。本研究では、油症患者さんの数を増やしても同じ皮膚ガス成分が選出されるかどうかを検証することを目的としています。

【意義】皮膚ガスに含まれる塩素化合物の種類を分析することで、油症の発症機序の解明や排泄促進に関わる因子を探索し、非侵襲的な方法による診断の確立や治療法の開発につなげます。

【方法】座位にて油症患者さんの手から自然に排出される皮膚ガスを専用の回収器を用いて約10分かけて回収します。回収した皮膚ガスはピコデバイス社に委託し、ガスクロマトグラフィー法で定性、定量解析を行って、油症患者さんに特徴的な成分の有無を解析します。この測定結果を油症ダイオキシン研究診療センターで管理されている油症検診者さんの血中ダイオキシン濃度と比較することで、油症の病勢と相関する皮膚ガス成分の有無を検証します。そのうえで、先行研究で得られた皮膚ガス成分の結果との相違について検討します。

対象となる患者さん

2021年9月21日～2023年12月31日の間に長崎大学病院と五島中央病院で実施していた【油症患者における皮膚ガス含有成分の特徴を調査するパイロット研究】に参加した方

研究に用いる情報

- 同意された日の診療録に記載されている年齢、性別、居住地域
- 同意された日から一番新しい油症健診で測定した血中ダイオキシン濃度
- 同意された日に採取した皮膚ガスの解析結果

本研究で利用する試料・情報等について詳しい内容をお知りになりたい方は下記の「お問い合わせ先」までご連絡ください。	
情報の提供開始予定日	
本研究は、2024年3月19日より「研究に用いる情報」を利用する予定です。	
あなたの試料・情報をこの研究に使われたくない方は下記の「問い合わせ先」までご連絡頂ければ対象者から外します。その場合もあなたの治療等に不利益になることはありません。 ご連絡のタイミングによっては対象者から外せない場合もあります。あらかじめご了承ください。	
研究実施期間	
研究機関長の許可日～2026年12月31日	
研究実施体制	
研究代表者	長崎大学病院 皮膚科・アレルギー科 室田浩之 長崎市 坂本1-7-1 長崎大学病院 TEL 095-819-7333 FAX 095-849-7335
共同研究機関／研究責任者	五島中央病院 油症外来 芦田美輪 九州大学病院油症ダイオキシン研究診療センター 辻学
長崎大学病院における情報の管理責任者	長崎大学病院 病院長
問い合わせ先	
【研究の内容、情報等の利用停止の申し出について】 長崎大学病院 皮膚科・アレルギー科 室田浩之 長崎市 坂本1-7-1 長崎大学病院 TEL 095-819-7333 FAX 095-849-7335	
【ご意見、苦情に関する相談窓口】（臨床研究・診療内容に関するものは除く） 長崎大学病院 医療相談室 長崎市 坂本1-7-1 TEL 095-819-7200 受付時間 : 月～金 8:30～17:00 (祝・祭日を除く)	